



INGING MOTORSPORT



## 2019 SUPER FORMULA

## JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Round. **3** スポーツランド菅生**決勝** 6月23日(日)

天候:曇り コース状況:ドライ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権の第3戦決勝が、スポーツランド菅生（宮城県柴田郡村田町）で行われ、38号車石浦宏明が7位入賞。39号車坪井翔は、残念ながらリタイアとなった。予選が振るわず、早めのピットインでソフトタイヤに交換し、追い上げを図る作戦を取ったが、燃料を考えながらの厳しい戦いとなった。

#38 石浦宏明 7位 #39 坪井翔 リタイア



決勝日も、予選日と変わらず朝から不安定な天候。しかし、雨は霧雨程度。決勝レースを迎える頃には、初夏の日差しも射した。

朝のフリー走行は、昨日の予選からドライしたセットアップの確認などをソフトタイヤで行った。そこでまた決勝に向けて、確認する時間は十分でないけれども、別のセッティングにする事に決定した。38号車は、11位。39号車は2位とまずまずの感触を得たが、必ずしも納得のいくものではなかった。スタート直前のウォームアップ走行は、38号車15位、39号車8位。クルマの最終確認をし、決勝に備えた。

午後2時20分、決勝がオンタイムでスタートすると、1コーナーの攻防で、2台ともにポジションを落としてしまう。38号車石浦は13番手、39号車坪井は18番手。レース序盤では、予選で下位に沈んでしまったクルマが、われわれと同様ラップタイムの速いソフトタイヤで追い上げを図るためピットに早めに入る戦略を取りピットに向かう。まず戦略通りピットに向かったのは、39号車。1周目でピットインし、ソフトタイヤに履き替え給油しピットアウトした。上位を除き、序盤のピットインが落ち着くと、坪井はしばらく、18番手のポジションで走行をした。大きな動きはなく、膠着状態がしばらく続いた。

終盤に入ると、他車のトラブルによる脱落もあり、16番手まで順位を上げていたが、SC走行が続いた後、リスタート直前のSPコーナーでアクセルを踏みすぎスピンを喫してしまい、残念ながらリタイアとなった。







一方、38号車の石浦は、3周目でピットに入った。実はこれは、菅生入りする前に考えてきた戦略。坪井の1周目のピットインは、リスクと考えた石浦。2台は同様に見えて別の戦略を取った。3周目のピットインでも燃料はギリギリであるため燃費走行に終始した。アグレッシブに前を追いかける戦い方をしたい気持ちもあったが、今回はこうするしかなかった。他車が脱落していく中、56周目には8番手までポジションを上げた。終盤セーフティカーが入るなど、アクシデントはあったものの、このまま8位でチェッカーを受けたが、他車のペナルティーがあり最終7位でポイント2点を獲得した。

今回、レース中盤はポジション的には、動きの少ないレースではあったが、2台は燃料を気にしつつ、コースにクルマを留めることを考えた。石浦のポイント獲得は、これを機に一気に挽回したいところ。また、坪井のリタイアは残念ではあったが、しっかり次を見据えるコメントを出すなど、前向き。ルーキーとして経験値を増やす過程と考え、次に期待したい。

次戦は、7月13日（土）、14日（日）富士スピードウェイで開催される。走り込んだサーキットで、巻き返しを図りたい。



## ドライバー #38 石浦 宏明

「今回のレースは、戦略的に早めにピットに入ると菅生に来る前に決めて来ました。ただ1周目に入るのは、ギャンブルだと思ったので、3周目に入ることにしました。正直、3周目に入るにしても、燃費走行を強いられることになるので、フォーミュラのレースとしては、自分が思い描くものとは違い不完全燃焼でした。チームと話しながらペースを決め走っていたので、前を追いかけるとか、自分にとって戦うレースではありませんでした。たくさん力を出し切って走りたかったという気持ちも少しあります。全体的に速いクルマを作り切れていないことが要因であるのと、チームとしては、ここ菅生で例年良い成績を取ってはいません。次の富士やもてぎは得意なサーキットなので、そこで今年のクルマとタイヤを使いこなせるようにするのが、今年の命題だと思います」

## ドライバー #39 坪井 翔

「1周目でピットに向かいましたが、あんなにみんなが入ると思いませんでした。その後、とにかくペースが悪くてダメでした。見えかけていたものがあつたのですが、いざ菅生に来ると通用せずと言った感じでした。SPコーナーでスピンをしたことは、みなさんに迷惑をかけてしまったと思っています。とにかく遅かったので、レースにならなかつたです。次の富士は、得意なサーキットで、テストでも走っているので、自信を持って走れるサーキットです。金曜からセットアップもしっかり考え、今回の反省も踏まえてやりたいと思います」



## 監督 立川 祐路

「なんと言ったら良いのか、苦しいレースでしたね。2台ともスタートしてから、思い切ってすぐピットに入る戦略を取りましたが、まわりも予選で下位にいたチームは、同じような戦略になるだろうと予想していましたが、みんなそうでしたね。もう少し、予選、決勝を含めてペースを速くしないと上位で戦うにはこのままではダメです。次の富士では、巻き返せるよう頑張りたいと思います」





## RESULTS/RANKING

## 正式決勝結果（上位10台抜粋+）

Pos	No	Driver	Type	Car	Time/ Behind
1	1	山本 尚貴	HONDA HR-417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:27'37.593
2	18	小林 可夢偉	TOYOTA Biz-01F	carrozzeria Team KCMG	3.127
3	50	L.アウアー	HONDA HR-417E	B-MAX with Motopark	4.820
4	37	N.キャシディ	TOYOTA Biz-01F	VANTELIN TEAM TOM'S	5.621
5	5	福住 仁嶺	HONDA HR-417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	8.060
6	3	山下 健太	TOYOTA Biz-01F	KONDO RACING	8.149
7	38	石浦 宏明	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO ・ INGING	10.061
8	4	国本 雄資	TOYOTA Biz-01F	KONDO RACING	11.351
9	17	塚越 広大	HONDA HR-417E	Real Racing	12.330
10	19	関口 雄飛	TOYOTA Biz-01F	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	12.736
—	39	坪井 翔	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO ・ INGING	10Laps

## ドライバースタンディング

（第3戦終了時点 上位5名抜粋+）

Pos	No	Driver	Point
1	1	山本 尚貴	27
2	37	N.キャシディ	16
3	3	山下 健太	11
4	19	関口 雄飛	10
5	18	小林 可夢偉	8
12	39	坪井 翔	4
14	38	石浦 宏明	2

## チームスタンディング

（第3戦終了時点 上位5チーム抜粋+）

Pos	Team	Point
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	34
2	VANTELIN TEAM TOM'S	16
3	KONDO RACING	15
4	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	10
5	carrozzeria Team KCMG	8
10	JMS P.MU/CERUMO ・ INGING	6